

## 全校集会

### 互いを尊重し合うふれあい集会 ―互いを大事にして歩み出す―

桜野 栄子

人は皆、夢や希望をもって生きている。けれども世の中にはいろいろな差別を受け、苦しんでいる人がいる。子どもの世界でも同じである。命の大切さや重みを忘れた悲しいニュースが毎日のように続き、教師も子どもも心を痛めていた。そして、人権とは何か、それを互いに尊重して、守り育てていくためにわたしたちに必要なこと、できることは何かを話し合った。

今月の歌「友だちはいいもんだ」の中に、「困った時は力をかそう 遠慮はいらぬ 愛を心に君と歩こう」というフレーズがある。毎朝、どのクラスからも美しく優しい歌声が響いてきた。集会委員会の子どもたちは、みんなが互いを大事にしてあたたかい学校にしたい、友だちがいてくれてよかったなといえる学校でありたい、そんな思いからこの集会を作り上げた。「友達の輪を広げよう集会」という集会名には、その子どもたちの願いが込められている。

#### 発表 「みんなともだち」～ぼくたち・わたしたちが考える人権～

##### 劇 こんな時 人権が危ない！その1 「みんなでちくちく言葉をおいはらおう」

「算数が苦手で計算が遅いさとし君のために早く終わった子も静かにして励ましてあげる、さとし君は励まされてがんばる」というストーリーは、実際に2年生の教室であった話。出張授業で見つけた子どものすてきな姿を終礼のスピーチで紹介したものである。日常、どの教室にもありそうなことで、ちょっとした気配りや一言で互いの心があたたかくなる。また、ちょっとした心ない言葉が、人の心を傷つけることもある。このことをみんなに伝え、教室でも話し合ってもらいたいという子どもたちの思いから、台本ができあがった。

太郎 : あ～、まだこんなとこやっとなが、だっさ～い。  
権人 : おい、太郎君、  
友達1 : シーッ！さとし君がまだ、計算してるでしょ。静かにしてあげなくちゃ。  
友達2 : さとし、もう少しやぞ、やり方あつとるから、がんばれ。  
さとし : うん、ありがとう  
太郎 : ださいなんて言ってごめんね。  
さとし : いいよ。でも、もう言わないでね。



<全校に投げかける集会委員>

ナレーター : 人をばかにしたり、ちくちく言葉で人を傷つけたりしていることはありませんか。みなさんは、ちくちく言葉というとどんな言葉を思いつきますか。  
ナレーター : 集会委員会で話し合ってみると、言われていやなちくちく言葉、聞くのもいやなちくちく言葉は「うざい」「きもい」「じゃま」などでした。中には、もっとひどい言葉で相手を傷つけていることもありました。  
ナレーター : 逆にもらってうれしいあつたか言葉は「がんばれ」「ありがとう」「よかったね」…でした。友だちにたくさんのあつたか言葉をあげて、みんながハッピーな小杉小学校にしたいですね。

集会の劇で発表されたあつたか言葉を聞いて、とてもいい言葉だなと思いました。「ありがとう」「よかったね」「よろしくね」など、たくさんのあつたか言葉がありました。わたしも言われてうれしいなと思いました。…わたしはこれから、「ちくちく言葉」は使わないようにしていきたいなと思います。逆に「あつたか言葉」を人にたくさん使っていきたいです。みんなも努力してくれればいいなと思います。この集会があつてとても勉強になってよかったと思いました。(5年生)

「人権って難しいことじゃなくて、いつもみんなが大事に思っていることだよ、誰にでもできることなんだよ、みんなでがんばろう」という委員会の子どものメッセージが届き、心と心が触れ合ったあたたかいひとときだった。また、集会後、各教室で話し合ったり、関連した題材を使って道徳の授業を行ったりしたことで、より子どもたちの心に響くものとなった。